

昭和四十二年六月三日招集(第一号)
第二面市議會定例会會議錄

館山市議会第二回定例会会議録(第一号)

昭和四十一年六月招集

六月二十一日(火曜日)

一 現在議員三十四名でその氏名次々とし

一番 吉田勇治郎

二番 鈴木正一郎

三番 小柴孝

四番 館石伝蔵

五番 田中祿郎

六番 秋山大三郎

七番 田村源治郎

八番 望月照正

九番 安西益男

十番 辻田実

二番 石井正

三番 菊井敏博

一四番 志村信作

一五番 小沢恵太郎

一六番 関武夫

一七番 黒川佐太郎

一八番 西村真次

一九番 藤田好治

二番 保科忠夫

二番 江田徳太郎

二番 君塚喜三

二番 中村省吾

二番 島野茂樹郎

二番 荻生田七郎

二番 嶋田繁

二番 山田敬宇

二番 鈴木市蔵

三番 安藤亀吉

三番 安次徳順

三番 三沢節

三番 高橋文治

三番 山本昇

三番 松本藤太郎

三番 山口康

一 議事日程(第一号)

第一 通告質問

第二 報告第一号 昭和四十年年度館山市継続費繰越計算書

報告について

第三 議案第三号 館山市消防団員等公務災害補償条例の判定

について

第四 議案第三十六号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する

条例の制定について

第五 議案第三十号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条

例の制定について

第六 議案第三十号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第七 議案第三十九号

非常勤の特別取組職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第八 議案第四十号

館山市教育長及び諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第九 議案第四十号

昭和四十一年六月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

第十 議案第四十号 市道路線の認定及び廃止について

第十一 議案第四十一号 監査委員の選任について

第十二 議案第四十二号 昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

第十三 議案第四十三号 昭和四十一年度館山市館山テニスホステル特別会計

補正予算

第十四 議案第四十四号 昭和四十一年度館山市上水道事業特別会計補

正予算

一、法第百三十一条による出席説明員

市長 本間 謙

助役 小出 武男

収入役 矢野 貴

秘書課長 小倉 澄男

企画課長 石見 茂生

庶務課長 山口 実

財政課長	長谷川 広治
市民課長	羽山 房雄
調査課長	高木 哲三
収納課長	多田 俊一
商工観光課長	小沢 正治
農林水産課長	伊藤 幸太郎
土木課長	新井 重助
建築課長	池田 春雄
衛生施設課長	吉田 耕一
保健衛生課長	池田 亮山
福祉事務所長	鶴澤 貫寛
教育課長	押本 穂逸
教育委員会 庶務課長	干場 伊右衛門
同 学校教育課長	山根 春夫

同 社会教育課長

源間利一

消防本部次長

石渡東

選挙管理委員会書記長

大嶋重義

監査委員会事務局長

館石勘治

農業委員会事務局長

山口太一

診療所事務局長

平柳徳蔵

一本議會了事務局長・事務局長補佐・書記

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

記

兵藤恭一

同

錦織睦子

一出席議員

三十四名

一欠席議員

廿七

午前十時五分 開議

議長(田中祿郎君)本日、出席議員数 三十三名。

こゝより第二回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査のため、地方自治法第百二十一条の
規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、実
戸収入役、谷貝課長、小沢課長、小倉課長、山口課長、
長谷川課長、池田課長、新井課長、伊藤課長、羽山課長、
高木課長、多田課長、鶴沢所長、池田課長、吉田課長、
大嶋書記長、館石局長、山口局長、平柳事務長、石渡
次長、押本教育長、千場課長、山根課長、源間課長以上
の者が出席する旨の報告がありました。
監査委員より四月、五月及び事務監査の結果が報告
されております。

お手元に配付のとおりであります。

本定例会う会議録署名員う決定を行ないます。

本定例会う会議録署名員に八番議員望月照正君、三〇番議員安藤竜吉君以上両君を指名いたします。

二つに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて決定いたします。

会期う決定を行ないます。

本定例会う会期につき、議会運営協議会う意見は本日かう六月二十五日までう五日間ということであります。おかけいたします。

会期を本日より六月二十五日までう五日間と定めます。ことに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって、~~本日は~~会期は五日間と決定いたしました。

こゝ際おはかりいたします。

季節も迫々炎暑う候と存じます。で、当分の間略衣により会議を行ないたいと思ひます。こゝに御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって、決まりました。本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。こゝより市長、説明を求めます。

（市長登壇）（拍手）

市長（本間素君）一言ごあいさつ申し上げます。

本日、三に第二回市議会定例会を招集いたしました。上程の

たします。付議事件はまず報告関係といひまゝでは昭和四十一年度継続費繰り越し計算書の報告であります。が、これは丁ミ焼却施設建設事業にかかる経費を四十一年度へ繰り越して使用するものでございまして自治法施行令で定めることにより報告するものであります。

次に一般議案関係といひまゝして消防団員等、公務災害補償条例の制定であります。これは非常勤消防団員等にかかる災害補償の基準を定める政令の一部改正が行なわれたことによるもので、そのおもなものといたしまして補償基準額を全面改正が行なわれたこと及び障害補償、遺族補償について障害の等級に基いて年金が預ったことであり、本市においては政令に定めることにより消防団員等、公務災害補償を行なうために本条例を制定しようというものであります。

なお、消防取員、公務災害補償条例につきましては一般
取、取員と同様、労働基準法が適用されることにな
る。で、前条例は存続する必要がありませんので、こ
こを廃止しようというものであります。

次に国民健康保険税条例の改正であります。これは、
低所得者にかかる国民健康保険税の減額基準を引
き上げるために、地方税法施行令の改正がなされたことによ
り、本市におきましても、国民健康保険税を減額する世
帯の範囲を拡大するために、世帯主主を除く被保険者
の数に応ずる金額を被保険者一人について二万五千円か
ら三万五千円に引き上げようというものであります。

次に特別取の給与に関する条例の一部改正であります。
が、これは一般取と格差及び物価の値上り等を考慮
して、特別取報酬審議会に諮問し、種々検討した結

果一部改正しようというものであります。

その他国民健康保険条例の一部改正、期末手当の特
別条例等があります。これは関係法令等に準拠
して市条例を改正または改定しようというものであります。
次に市道線、認定及び廃止についてであります。こ
は市道線の改良に伴ひ、町の崎、百三十七番地先から
百四十八番地先に至る町の崎、四号線を廃止し、新た
に町の崎、百三十七番地先から、百二十七番地先に至
る町の崎、四号線を認定についてお願いするものであ
ります。

次に人事関係といひまゝして、監査委員中一名の者が任
期満了になる。で、その選任に当り、議会が同意をお
願ひするものであります。

次に予算関係といひまゝしては、一般会計ほか二特別

会計の補正予算をお願いするものでありますが一般会計において、補正いたしますおもなものといたしましては、総務費関係で開発公社の貸し付け金九百万円、千葉県鉄道網整備促進期成同盟会負担金として九十二万円、館山駅前十字路自動信号機設置工事費として四十一万円、交通事故相談所、津波負担金十萬五千円、公取選挙法改正に伴う基本選挙人名簿カード化に関する実態調査関係として三十三万一千円等で民生関係では青年会館建設費関係で三百二十万円、衛生関係では自動車改造費及びブルトーザー借り上げ料等で百二十五万円、商工関係では海岸便所増設工事費二百三十五万円、土木関係で道路維持補修工事用原材料費として百一十八千円、教育費関係では神余小学校便所改修工事、及び富崎小学校

校舎改修費として三十五万円、市体育協会補助金
三十九万余円がおもなもので、歳出合計千八百二十五万円
の補正とやり、その財源といたしまして臨時地方特別支
付金五百八十二万円、県支出金百十六万五千円、寄
付金二百十一万等をもちて充当しようというものであり
ます。

次にユースホステル特別会計において、補正いたしますおも
なものといたしましては、土止め工事費等に関する請
負費として三十一万円。

上水道特別会計で補正いたしますおもなものは、かいた村
の水道施設で三十二万円等であります。

以上議案につきましては、極めて簡単に申し上げま
すが、各議案につきましては上程の都度関係課長を
して詳細に説明いたさしますので、慎重御審議うばと

を願ひする次第でございます。(拍手)

議長(田中祿郎君) 日程第一 通告による行政一般質問を行ないます。

一、番議員 辻田実君登壇願ひます。

(一、番議員 登壇) (拍手)

二、番(辻田実君) 私は三點について御質問申上げたいと存じます。

まず第一點は十萬都市構想についてお伺いしたいと思つてございます。

市長は四年前、観光と産業と教育の振興を中心に十萬都市の建設をスローガンとして市長に選ばれました。五萬五千をかねてゐる市民はこれに對して非常に期待を寄せておたわけでございます。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、現実は市民の期待とは逆に人口は減少の一途を辿り増加する傾向は全

く見らないうでございます。教育についても老朽校舎は全体う半分乃至本年はこらう見通しもつかないままに学校建設費を全く計上しない。最悪う状態を招いておるうでございます。こゝことはいかに弁解しても市民に対して申し分けうできないことであります。

私はこゝ問題については三月の予算議会においてすでに論議を尽くしてありますので省略いたしますが觀光についてはどうでありますか。市勢振興調査の中で指摘しております種々建設的意見はほとんどといていい位取り上げられず、具体化う方向に向かつておりません。現状では地えり意向とは別に帝國觀光ゴルフ場ができたリ、京城うゴルフ場ができたリしてありますがすべて県外う資本によるものであつて、中でも、所々崎灯台う周辺う一万坪に及ぶところう館山市

きつて、将来性がある土地を、これを同様に県外資本家に払い下げることに同意しているさまに至っては、何もいうことはございません。

フラワーラインができてしまっても、これに関連する地元観光の開発計画がほとんど見られないのは、実にさびしい限りでございます。

先般移動県庁で、地元が館山に参らねまいて、多くを約束さねまいたが、その中でも、館山校橋の改修等、合わせてこれを館山市の表玄関にふさわしい立派なものにする、ということとは約束されておるわけでございます。

そうして、この点につきましては、館山市と県が予算を半々にして行なつてもいいのではないかというふうな具体的な答弁も、大書にまつて明らかにされておるところでございます。最近聞くところによると、いまだ何らが見通

「もたないままに市長はいろいろの会合において、国体誘致にからげてヨット会場として整備したいということを言われておるといふようなことを伺っております。しかし日進月歩で今日、このまうなことは全く夢に過ぎないと思うのでございます。私たちにすれば国体がいづれ葉果で開催されるということについては全く見通しがつかない。現在において、このまうなことで、館山校橋の問題が責任を回避されておるといふようなことではありません。この点については、このまうに考えなくてはならない。お伺いしたいわけでございます。」

次に産業の開発でござりますが、田村市政以来、農業構造改善さらに農協の合併等がありまゝに、その他に東京湾漁業の斜陽化に伴うところ、船形、あぐり網に対する対策、さらに十五年前に決定

さしたところ、遠洋漁業の基地としての館山湾の開発が、その後、何ら発展してゐないのが現状でございます。

さらに付随する町工場はあつても誘致された工場があるというよりはほとんど聞いておりません。地元の地盤産業が發展したということを伺つてないのが現状でございます。ニライた状況の中で最近は今く十萬都市という言葉が館山市政の中から消えてしまつたかような感じがいたします。わけでございます。

この点について市長は、どうにも考へになつてゐるか、その点を明らかにしてもらいたいわけでございます。

従来、市長は広く市民からやりまい市政を築くためにいろいろと苦心見を聞かれ、そうしてその点を執行されてきたことに対しては、市民が等しく好感をよせているところでございます。昨年以來、ニライた基本的施

策を以て市長再選の事前運動的傾向が現われ先般ある政党において市長選の公認が決定し市長室において公認書の伝達をするというところが地方新聞に報道されておるところでございます。館山市においては、かつてこのようなことは見られなかつたのでございます。

政治的な問題さらに階級的な問題を市長自身が市政の中に持ち込むというものは何ということでございますか。この点を明らかにしていただきたいのでございます。

館山市制発足以来何代か市長が館山市政に携さわらば、まーたが、政党員であつても市長選挙にのぞんで政党制をもつて、立候補したということとはかつてございません。

日本社会党も大名の議員を擁しております。市政に参

与へてゐるけれども、階級的な立場に立つて市政
の問題、地方自治体の問題等を解決しようといふこ
とはかつて一度もいたつて参つておりません。

私たちは地方自治を守り、教育、道路、下水をまゝに
市民の福祉向上するには、政党の問題とか、階級的性格
を必要ないと思つておつたからでございます。

私はあえて市長に質問いたします。

今日、近代政治を施行するにつまゝでは中央政治
の如く地方自治体の中にあつても保守対革新の階級的
対立は避けられないといふふうにお考へになつておるのか。

この点について私は市長の所信を明らかにしていただきた
いわけでございます。さうして市長が今回ある政党によつ
て公認され、候補することとを対外的に明らかにしておるわ
けでございますけれども、その中において、十萬都市構想が

どうようになされておるか。さらにそれによって十萬都市構想をより具体的に発展させていくということについてどうようにも考えになっておるか。その点について合わせてお伺いしたいわけでございます。

このようなおことと関連をいたしましていかどうかは別といたしまして最近では市長が市本来のことよりも公共団体の役員にいたりして市が本来あるべき本質的な問題についてはおろそかになりがちになっておるのではないかという点が伺われるわけでございますけれどもこの点について若干お伺いしたいと思うわけでございます。

市長が市民体育大会さらには館山市の文化祭さらには観光祭等を主催してその先頭に立つて私はいろいろな行事なり、そういうことを推進していくことについては非常によろしいことだと思っております。そういう姿勢という方は正

ーいと思っております。ーカー。昨年から防犯協力会とか
さらに観光協会とか、自衛隊協力会とか、いろいろたところ
個々の公共団体に対して役員として出ていく。ニようがほとん
どが館山市におきますところう助成団体であるというこ
とを私は忘れてはならない。このようになってくると市長が
公共団体を育成すべき立場にありながら、それがむしろ
公共団体の執行者として行なうというところについては、いさ
か問題があるのではないかというふうに思うわけでござい
ます。ーカーながら防犯についても観光にしても、いろいろた
問題については非常に大切なことであるから、市長が率
先してやらねることは結構でございしまするけれども、ーカー
ながら先ほど申し上げましたように、十万都市構想について
、今館山市が直面しているいろいろ問題、さらに青
少年問題協議会等が一年半前に発足した。この協

議会が開催が過去一年有る金く開かれておられない
という状態の中において幹事的な団体に参加していくと
いうことは問題があるわけでございます。

最近の傾向はいろいろ公共団体や長につれておる
市長はおります。一か一ながら市本来の仕事に専念
するために最近ではばつばつそういう役取はやめて市
がそれと育成するという傾向になっていくときに私は
三一年間そういう傾向に走りかちであるということに
ついては自棄してもうわなければならぬ点が多々あると
思うのであります。この点どうしようにも考えになって
おるか、私は二点目として伺いたいわけでございます。
次に市民センターの建設状況について御質問申し上げ
たいと思います。

まず第一に市民センターの建設状況はその後どうような

傾向を経て現在に至つておるのか。御質問いたらないわけ
でございます。そこで私は、この建設の経過がどうであ
るかという点についてどういふことを聞きたいかということ
について、まず、明らかになりたいと思うわけでございます。
市民センター建設委員会がすでにできておりまするけ
ども、その市民センター建設委員会の中では、市民セ
ンターの建設については、どの程度が答申がなされておる
のか。まず、第一に明らかになっていただきたいわけではな
いと思います。

二番目に聞くと、ころによると、市民センターは、体育館的
傾向が非常に強いという。これは、うわさでございます
るけれども、聞いております。また、それを裏づける
報道等がなされております。これは、この点については
どの程度まで進んでおるのか。お伺いいたないわけではな
い。

市長は施政方針の中で冒頭に市民センターの問題を
取り上げ、外來客誘致につながるというたくさんの人
を収容できる市民センターの建設をいたいと申してお
ります。次に教育部門の冒頭においてこれを受
けて立ちまゝして、本年度は特に多年の懸念案であ
った市民のつどい、場、社会教育の場、市民の体位
向上の場としてさらに観光、産業基盤整備の一
助として活用すべく市民センターを本年度より二
カ年継続事業として建設するというふうになつて
おるやうでございます。すなわち、この文から見ても市民の
つどいの場として、福祉センター的役割を果たさうと
いうのが市民会館の第一の目的であるのか。

第二に社会教育的立場として、体育館がその目的なのか
さらに観光、産業基盤として、観光センターとして

目的が主体^{なか}うか。施政方針や文章をもつても以上三通リが面が伺がわかるわけでございます。

一カーナガラニやら三通リやもつとミックスしてやるようにすることは現在う段階では非常に困難ではなからうかというふうに思うわけでございます。

その点について私はニ三危惧している点を申し上げておくらに對する市議長の見解をお伺いしたいわけでございます。すなわち、單なる公民館、福祉センターでいたう、現在放棄署の裏の方に敷地を買収して建てるということについて私はある程度賛成をして参りたいと考えております。一カー体育館を中心としたところの施設であつた場合に多少疑問を生じざるを得ないと考えてゐるわけでございます。すなわち、今館山市において体育館がどう程度必要かということが、第一、そうして国体や誘致

にどうしても市民会館が必要であるというけれども、
国体も誘致も見通しは金くさい。三つ目には体育館
というものはこれから総合体育館的なものができる
ような場所敷地を有するところに作るのが妥当だ
というふうに考えております。

市営プールが宮城にあり、市民体育館が北条にあり、
陸上競技場がまぎにできる。こういうふうになつたので
は、体育行政はうまくいかないのではないかと、
考えるわけでございまして、二方面において無理があ
るのではないかと考えておるわけでございますけれども、
この点はどうであらうか。

三番目に観光センターを中心としたものであるならば、
私は場所が悪いのではないかというふうに考えており
ます。海から距離があり過ぎるということが第一、

海岸線の方にあつた方がいいということ。さらには現在あそ
こ土地は一方交通であつて非常に交通の便が悪い
さうして一方交通の解消はすでに議会の中でもつて、
再三唱えられてゐるけれども、今までに一方交通を解消
してサメートル十二メートル道路を作り、駅から、市役所
市民センターまで直結できるということは、ほとんど実現
性がないように考えるからでございます。

ニラうたことを考えますと、観光センター、体育館というも
のがあそこに建てらうとかならう問題点を残してくる
というふうに考えられます。二ヶ点については私は十分、
委員会なり、今までの審議過程の中で審議されてきた
のではないかと、いうふうに思ひまするけれども、その点につ
いての報告を今までに聞いておらないわけでございます
ので、中間報告であつてもよろしいわけでございます。

よども、その点についてそろそろ明らかになってもらうことが
 妥当ではないかというふうに思いまゝて、あえて、市民セン
 ターの問題をここに取り上げて御質問いたした次第で
 ございます。

第三点といたしまして、館山湾の開発について御質問
 申し上げたいのでございます。

第一は館山湾の開発構想は、観光なのか、水産なのか、
 港湾なのか、こゝろに面について、その後市長は明らかに
 されておるかどうか、お伺いしたいわけでございます。この点

については私は三年前議員になりましてから、
 湾の開発の問題について市長の方向というものを聞いたこ

とがございます。一か一かながら、四年前、市長が選挙いた

しておるときに公約された中において、館山湾の開発こそ

館山市にとって、館山市の将来を決定する重要な本

インであるということをお申し述べ、それらに対する若干の施策を述べておることは明らかでございます。その点を四年たつて今日においてどうような経過を取り、どうような方向により、向かうとしてきたか、お伺いしたいわけでございます。観光の面については、氷泳所として、館山湾、さらにヨントハーバーとして、館山湾、ミラー、たことが考えらる。

先般議会の中で、質問がございまして、館山湾を埋め立ててホテルを作るといふような構想もあるようにございまして、けれども、これについてどうなつておるか、まず、お伺いしたいわけでございます。

次に水産の面でございしますけれども、遠洋漁業の基地として、極洋の基地がございします。さらに東京湾の漁業として、基地はあぐり網の基地でございします。

ーカーながら、このよう問題について三、四年来大した
 見るところの施策というものはなされてないのではないかと
 いうふうに伺がわかるわけでございます。特に台湾の整
 備拡充ということ是非常に強く打ち出されておりまする
 けれども、この点について施策があまり上ってないように
 思います。この点についてはどうなうか、この点については都市
 診断の中で方向性はつきりうたわておるわけでござ
 いまするけれども、それと合わせてお伺いしたいわけで
 ございます。特にこの件におきましては、熊山の航空隊
 との関係でございます。あのスロープを払い下げるに当た
 る最終的に市長さんがやりまして三分の一づつ航空隊、極端
 漁業会という非常に熊山市にとっては不利な方向であ
 るスロープの借用問題について解決されたように聞いて
 おります。この点において熊山移り開発について

市民の方向という方はうの問題が出てきておるように見受けられるわけでございますけれども、ミラーの問題についてどうふうに考えておるかお伺いしたいわけでございます。

第二に館山湾の観光という面、または水泳という面からいつて館山湾の清浄化・衛生面、ミラー面はすでに市長も再三申されておりますけれども、私先日保健所にいつて伺いましたところ、館山湾もそろそろ根本的な対策を立てないと水泳ができなくなるのではないかということをおっしゃっております。

その原因としては一つが今より人口がふえていけば、その汚水によつても、館山湾の海水は汚染して水泳には不適当になるといふ状況が出てくるであろう。さらに農薬の問題、さらには工業汚染がけられておるけれども、ニトラに対してはさほどどう考えを持っていかないと、全面的に水泳

二 食 料 市 場 全
がでさなくなるという状況になりかねないという二点を伺う
あります。二つは下水の整備、水洗便所等、完全管
理。三つはもうが徹底しない限り、なかなか困難ではな
かろうかと申します。市長は三つは点について
どうようにお考えになつておるか。どういふ対策を立てて
いくか、お伺いしたいわけでございます。

最後に三つは問題をかみ合せて、館山湾の開
発は第一に港湾として発展させるならば、船から出る汚
物によつて観光はでさなくなる。沿岸漁業は打撃をこ
うむる。三つは宿命を持っております。さうして、館山
湾の水泳とか観光というもうき重視してゐるならば、漁
業とか、港湾として機能発展。三つは面について相当
予備してくるわけでございますけれども、三つは点につい
ては、今までにも考えになつたことがあるかどうか。二つから

どうもうな方向で進んでいこうとするのか。二つらの点についてある程度お考えがまとまっておるようでございます。一たらこの機会でございますので、御答弁をいただきたいというふうに思っております。よろしく。

(市長 登壇)

・市長(本間 譲君) 辻田議員さん、御質問に對しましてお答えいたします。辻田さん、もう右の廣説はできませんで要領を得ない点があるかと思いますが、御了承願いたしたいと思います。

十方都市構想は私う念願であるわけでございますが、これは結局人口もふやす。二ついうことでございますけれども、現在に於いては、確かに人口は増加しておりません。

二つ基本となるものは、水資源を確保すること、三つ目には、必要土地をあつせんすること、三番目には、道路交通網

う整備。三いうことを私は基本的に考えておるわけでござ
います。

住宅を作るにも工場を作るにも観光開発をしますにも
水がなければはなげできないわけでございます。でございますか
ら、私は水資源の開発につきましても、議会でも同意を
得ましていろいろやっておるわけでございますけれども、二
年前から計画しております水道でございますが、現在
館山市には那古、船形及び神戸、富崎地区には水道が
ございせん。非常に水がなくて困っておるわけでございま
す。大矢に見舞われた場合には、災害が予想されるわ
けで、そういう面からしても、水道の設置が重要であろう
というふうに考えております。

御承知のように館山、富崎、三芳で水道組合を結成い
たしまして、三芳、増間地区にダムを作りまして給水をし

する。こゝういうことで六月十四日の水道組合の議会におきまして四億二千五百万をもちまして飛鳥建設との工事契約の御承認を得て、近く工事に着工する。こゝういうことになっております。こゝう工事は満二カ年かかることで契約ができておるわけでございます。

それから現在調査費を願ひておりますが、富崎を中心として神戸、神余方面の給水の関係で神余にダムを作りまして簡易水道でいこうという考え方であります。けれども最近神戸地区あたりゴルフ場が京成もできる。帝国観光もできる。いろいろ施設ができてきて、それに關係して水の使用量が非常に多くなると思ひまして、これを本水道に切りかえてやつたらどうか。こゝういふうに考えております。現在、これを検討中でございますが、こゝう二つが大体でき上るうが二年半位かかると思ひ

います。二つができますとまず水資源については心配は
 ないというふうに確信しておるわけですが、この水
 道につきましては、前、議会でも申し上げたと思いますが、
 友納知事さんが、館山を中心とした房州南部地方に果
 然水道をやりたい。こういう話がございまして、な
 かなか、この仕事は大きな資本であることが、いいわけだから、私
 は結構だということでは、是非も願いたいということにな
 っておりますが、果にございまして、本年度、予算にお
 きまして、水源調査費を五百万円組んだわけですが、い
 ます。最初、一千万の予定が、削られて、五百万になったが
 二つにございまして、早くやってもいいというところで、我々も
 二、三回いきまして、最初衛生部長は九十九里の方を考
 えてゐるということではございまして、いろいろ関係者と
 陳情した結果、房州の水資源調査費に充てることにな

つたわけでございます。将来、果ては水道を実現するた
に努力をばらうと。参りたいと考えてゐるわけでございます。
それから、必要な土地があつてゐますが、住宅を作るに
ましても、工場誘致、観光開発するにましても、やはり
土地が一番問題になるわけでございます。二、三、四、土地
となるべく安い値段で入手ができればあつていく。
二、三、つきましても、三月市会が協賛を結ましても、三月三十日に
館山市開発公社が果ては果ては認可を得なければなりません。
二、三、つきましても、それから土地の買収に当たって参りたいと考
えてゐる次第でございます。

それから、交通網、道路関係でございますが、やはり、何とい
つても、大都会と、距離が短縮、時間が短縮、ということが非
常に大きな問題になるわけでございます。近隣町村長と
ともに、房総西線、電化、複線につきましても、二、三年前から

運動をしてゐるわけですが、皆さん御承知のやうに
去年の十二月に房総西線電化複線の起工式が館山駅
で行なわれたわけで、大体今が構想ですと、四十七年です
か、こゝういふことになつておりますけれども、四十七年では相当
期間がございますから、こゝう促進をはかりたいと考へて
ゐるわけがございます。

道路面につきましては大きな問題としましては、有料道
路がやう／＼館山市を中心として運動をいたしまして、
あつからず心算にできることになつたわけでございします。
それともう一つは、近隣町村との合併によりまして、目的
を達成しないと考へております。

こゝにつきましては、二月だと思ひますが、関係町村長さんと
集まりまして、第一回り会合をしても互いに研究をする
こゝういふふうになっております。どうしても人々をふやす

には近隣町村の合併も必要ではないかと思ひまゝ。そう
いうことも合わせて、やうて参りないと思ひうわけでござい
ます。それから館山桟橋の問題ですが、これは県の方に話を
ございます。

知事は館山が白浜にいく道筋で客が止まらないうでまことに
遺憾だから何とかしたい。こういう考えであります。観
光センター的なものを作りたいというふうなことでございま
す。県庁開発局の案によりまして、館山桟橋の埋め立て計
画が県においてはできておるわけでございす。

市においても、このようにしては検討しておるわけでござい
ますが、いづれにまゝでも、現在まだ発表の段階でござ
いせん。この問題につきまゝでは、慎重に考えて参りた
いと思ひます。うである程度う案ができますれば、まず、地
元の方々と話し合つていかねければならぬと思ひます。け

ども、現在はまだ構想という程度でございまして、それ以上は進んでおりないわけでございます。

それから、市長がある政党から公認されて公認書を市長室で云々と申さるまいが、私は現在も将来も、そうですけどども、市長というものは、私を考へは、やはり市民を中心に考へまして、労働組合に對し、ましても、できる限り、施策をほどこしてあります。決して、党を何か考へてやつてゐるわけではございません。私は今までのような考へ方で、現在も進もうとしてあります。

いろいろ政党からどうや、こうやという問題につきましても、私はお答えすることは、この席ではできません。

それから、最近特に市長は公共団体、役員になり、そのことにより、市政の本質的なものを置きざりにする傾向があるのではないか、こういうことでございますが、この矢

団体というものは、農協、漁協とか、市町村とかいうのは、公共団体ではないかと思ひますね。私うやういふのは、任意団体ですね。公共団体ではないと思ひますが、それでいいでしょう。

今、さうしておりますのは、防犯協力会や会長とか、交通安全対策協議会長、観光協会会長、現在う社会では、交通問題とか、防犯問題ということを市政で強く考えなければならぬではないか、こういうふうに考えておきまして、私がやろうと一々わけではなけれども、推薦を受けましたから、こういうことは、市政の中に入つて進んでやるべきだ、こういうふうには考えておるわけでございます。（拍手）

それから、観光協会のことでございますが、これにつきましては、前会長さんがおやめになりまして、ばうく、そのまゝになつて、関係者の方々が御心配になつておきまして、市と一ましても、観光協会や育成については非常に重要でございますから、

いろいろ御相談に預かって参ったわけでございますが、私も再建の総会に参ったわけでございますが、私に会長という話もありましたから、会長はやはり業者の専門的にやる人の方が熱が入っていいんではないか、私がやるんではないかと申し上げたわけでございますけれども、これは暫定的にやってもいい、というわけで現在再建途中でございまして、目度がつきますれば、おひきといたいただきたいと思っております。これはとても、やはり、市政には大きな関係がありますから、そういう考えうもとにかく引き受けたい、たわけでございます。

それから、市民センター建設状況はその後どうなつておるかというのを尋ねてございますが、これは、市民館及び体育館建設調査会という名前で約十人の人を委嘱して、その方について研究して参ったわけでございますが、その諮問は

結局、市民館を主とした体育館。三という答申でありました。場所は市役所より東側の水田がよろしいんではないか。三という事でございまして。これは市民館に体育館を兼ねる。体育館は柔道、剣道、ビボン。それ位のものでよいという事に進んで参りたいと考えておりますが、大体、公民館的に主として体育館を従としたことで、収容人員を二千名。三という構想でございしますが、まだ設計もできておりません。それから、やはり検討して、そういう方向で参りたいと考えております。

それから、館山湾の開港計画構想計画について三というにとでございしますが、館山湾は最近観光にウエイトがかかっている面が多いわけですので、やはり水産基地としてもやはり振興をはからなければいけないわけですので、現任、鷹の島、沖の島、三はいろいろ防衛庁

とう間に問題があつたわけでございますけれども、鷹の島は削つてしまふという最初の方針だったわけでございますけれども、我々は観光的にやういふことをされては困る。神島も残してもらいたい。こいうことで防衛庁に教回いきまう。それは確保されてゐるわけでございます。

それから今うスロープのところでございますが、あゝは自衛隊の方で使うという意向があつたので、ございますが、漁業者、海運業者、船の修繕をする公共的施設として、三分の一だけをこうちに借りてもらいたい。業者に聞きます。たら、三分の一あれば、いゝやうなことでございまして、その方針で現在、大蔵省に借用の書類を提出してございます。館山湾は観光から見ましても、大きな価値があるわけでございます。また水産基地としても、育成しなければいけない。館山菜港の拡張につきましても、市でも責

用を以て改善をはかつてゐるわけでございます。

それから、館山湾の衛生面と浄化面をどうふうに考えてゐるか、こういうことでございますが、これは今までいろいろなやりかたんですが、つまり、リキ上り方にゴミを捨てて非常に困るわけでございます。これは、区長会、いろいろな場合にも願ひて、五枚を立てるとか、いろいろ処置して参つておりますが、リキゴミを捨てることによつて、汚染するやうで、捨てないやうに、ということをやから、大いに注意して参りたいと思ひます。それから、大陽の菌の問題も考えらると思ひますが、これは、やはり水洗便所が完全でない、消毒が完全に届いてないということも原因だと思ひますが、水洗便所の管理についても、研究していかねばならない。こういうふうな考えのわけであります。結局はまだ、すぐうことでは、ございませんが、やはり、下水装置をすることによつて、こういう海水や汚

染等は防げるんではないかと思ひます。

これは先うことになりまますけれども下水設備をせなければい
けないと考えるわけでございます。

最後う産業開発と観光開発、予備する面があるんで
はないかということでございますが、そういうことの起らないよ
うに善処して参りたいというふうに考えてゐるわけでございます
ます。はなはだ簡單でございますが、以上、申し上げまして
御回答いたします次第でございます。

議長(田中祿郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時九分 休憩

午前十一時三十分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

一。番(辻田実君)再質問いたします。まず第一点でございます。けれども、二。う問題は大きな問題でございます。私はいえ、あえて一つ一つ、二。以上御質問を避けたいと思ひますけれども、一。かりながら私は基本的な問題について二。三。もう少。明らかならしておきたいと思ひうわけでございます。

先般北条小学校におきまして教育の講演会があつたわけでございますけれども、その中でもって、市勢振興診断の調査員として中心的に果たして、くいな清水先生が話しておつたわけでございますけれども、その中う二。三拾つても、かり、重大な問題があつた。

例えば、市長さんが言われております道路交通の開発の面について、フラワーラインができて云々ということについて、おら、いま、たが、清水先生も確かにフラワーラインを通つてすばら、い、ということを発表されておりました。二。点については

画期的道路ということを報告してありますけれども、
話が終りまして別室に帰りまして画期的なことはわかる
けれども、館山市の経済とかそういう面についてはどうで
すか、ということをお聞きしたり。あつたままでは館山市の観
光・産業には結び付かない。あつたままの道路では、白浜に
いくために道路を作った以外には、何にもない。こういう
点を指摘されてあります。館山市の利益はほとんどない。
むしろあそこらあたりの道路を歩いておつて、西岬は長生
きう村であつても、交通事故によつてお年寄りや死ぬ
ではないか。そういうことをおつておつておらうけれども、
しろ、そういう面からいくと、館山市のためには、経済的には
あまりよくない。そういうことを断らうておる。

この点について、市長さんは、館山市の観光開発、十萬都市構
想に結び付くということをお申されてあります。そういう考えでは

危険だ。道路としては立派なものであるけれども、市民の立場から考慮されていない。あの周辺の園芸とか、そういうものがもつと根本的にやられるとか、さらに周辺に住民の道路交通網というものを推進をはかつてやらねと、年寄りや交通地獄の墓場になってしまふということも想定されるわけでございます。

それから、附崎を館山市であれだけを全面的に確保しなかったか。見通しもつかないままにオリンピックの問題等あったようにございますが、民間会社にある土地の払い下げについて同意した。これはについては館山市の観光上からいえば、大失政であるということを言われたわけでございませうけれども、ああな問題について館山市の要所々々を県外地元以外の人にやっておる。

京成から京成でもうけは本社にいく。東京にいく。館山

市は犠牲をはらって館山市は何にもふえない。こういう結果になります。

そういう点が十万都市構想というらはうにきてなる。こういう点について私はもつと考えを細かく慎重にこの問題を扱ってもらうことを要望したい。さらに開発局の案で埋め立て云々ということも市長が迎合的態度を持っておるといふことでございますが、館山市の構想がまとまっておらない間は果す件についても、必然たる態度でございまして、なければならぬ。こういう点については特に要望するということでもって、この点については終りたいと思います。

公共団体う点でございますけれども、私は先ほど申し上げましたように、交通安全、市民大会、文化祭、こういうことについては、市長が先頭に立ってやることが当然だと思えます。一か一ながら民間の団体、そういうものを育成し

ていく立場、まして、館山市が補助金を与えている団体や長になつてそれをやるということとはなれ合ひであり八百長であるというふうに思ひます。私はそういうことは、僕もむべきだと思つておるわけでございます。いい方向ではない。

市長はいい方向だと言われたが、私はそういう面においては考へなおす必要があると思ふ。

市長が団体や長になれば、市から補助金が出される。市が取資も使えるということでも考へらる。市長は市として金の援助もする。人的援助もする。こういう立場で働くべきであつて、私はここに市長が加わるということとは公私混同もはたはだしいと言わなければならぬ。そういう観点によつて市長御反省の意味があるかどうか。御質問いたしたと思ひます。

政策的・階級制ということについては市長言われまゝです。

ラに市民の立場に立ってやるといふことが確認されまいか
うで、そういう点を市長が肝に銘じて進んでいただく
たいことを要望いたしまして、十方都市構想については、終
りたいと思います。

市民センターの建設でございますが、この中で御答弁いた
だきたいと思ひます。

第一点は、答申というものを見てないけれども、文書なり
そういうものであったんですか、お伺いしたいわけです。

いろいろ意見が委員会の中で出され、その意見が最終
的にまとめられて報告がされたと思ひますが、答申の文
書を公開できるか、その点についてお伺いしたいわけでござ
います。

それについても、先般清水先生に館山市の都市診断をして
いるので聞いた。

館山市には物産館的な観光センター的な市民ういーい
場として、こういうふうな傾向が一つ集会所というものが
必要だ。これは痛切に感ずるということを指摘されて
おた。作れということは言いませんけれども、館山市に少
なくとも集会所がない。客を白旗に取らる。そういう
ことでセンターを作るということは結構だということとい
つておる。場所の問題についてはふたない。場所もそう
いうことであれば、おろすからきまつてくる。そういうこと
である。

私としては体育館については結論がでておれば、いきすぐ
でございますけれども、出てなければ体育館だったら、併
設して、市民が利用する。町や年寄り青年団とか民
衆団体が簡単に利用できる公民館的な大きな大会
もできる。観光的な物産展とか陳列場ができる。

三という方向にいくようなものであればいいけれども、体育館をこーかけをならへたから、市民センターだということであらば私はあとで一大失政を我々議会や議員として見守る中で行なわれたという点を心配するわけでございまして、この点についてはもう少一具体的に御答弁をいただきたいわけでございます。市長の答弁によって、再質問したいと考えておるわけでございますので、この点を中心にして御答弁願いたい。

第三点については、具体的に起こっております問題でございます。それから、今後、ミウという面について十分留意して市政に当たっていただくたい。要望意見見に止めたいと思ひますので、以上の点について答弁をお願いいたいたうと思ひます。

市長（本間 譲君）フラワーラインは都会人がきて土地のため

にならない。また老人がけがをうたり、困るではないか。ミウ
いうお話でございますが、私はそういうふうには考えておりま
せん。都立人がくることによつて土地が繁栄するわけでござ
います。自動車が通つてくばかりではございませんで、中
食もするでしょう。みやげものを買つてはもう人かこ
なければけんかにもならない。くることによつていいわけでござ
います。あそこで老人がけがをすうと云うことは想像もで
きないと考えております。

あう道路ができたことによつて産業う面からうまうても
観光う面からうまうても、非常に私は有意義だと考
えております。

それから、所々崎うい場所を事業会社う方に譲つたのは、
ふに落ちないという御意見見うまうてございますが、所々崎
う東洋観光は大蔵省が直接やつたわけでございます。

それにつきましては、市としましては、館山市の観光を十分取り入れる仕事をしてもうわけなければならぬということと、いつもあるわけでもございまして、東洋観光につきましても、事業を始めるときに市と相談する。これは、確かオリンピックをやることについて、東洋観光の建物か何かと取りかえつことをしておるわけです。

もう一つ、相模鉄道は平田さんの持つておるものを買ったわけでもございしますが、相模鉄道も東洋観光も開発について、市と相談してやる。こういう話合いになっております。やはり土地の開発とは、かるには土地の人ではないかな。私はできないと思います。

やはり大きな資本を持つてくる人によって開発されることが一番いいことだと思ひます。

土地を買って以上は開発をしなければ、何こうでも商業

になりませんから、これは歓迎すべきだと考えております。
それから市長が会長になれば補助金がふえる。こういう
お話でございますが、絶対にそんなことはございません。必要
のないものについてはいたしませんから、そういう公私混同のこ
とは絶対に今後もしりません。現在もいたっておりません。
それから市長が会長になるということはただ今申し上げまい
まうに、最近の社会情勢ですわ、交通問題とか、防犯の問
題とか、いろいろ重要な問題でありまして、こういう問題
は市が取り上げてやるべきこととございまして、市では
観光課に交通防犯係長を置いて、この問題を推進して
やるわけとございまして、私は別にそういう会長にかりたくてな
るわけではございません。大体町村長が安房郡において
はみんなやっております。ですからぜひやってくれということ
で別に私がそういう希望を持ったわけでもございません。な

るべくそういうことは避けられれば避けられた方がいいという
 考えでございますけれども、やはり市政を通しても重要な
 問題でございますからやるべきだ。三というふうに考
 えておるわけでございます。

それから市民センターの意見書ですか。これは調べま
 らう会議録に書いてあるそうですからあとでござん願
 いたいと思います。よろしゅうございますか。

一〇番(井田実君)最後の方から申し上げます。会議録に
 あるということは要するに答申ということと意味が違
 うではないんですか。会議録にいろいろあるかもしれませんが
 が、集約して委員会として一つ方向なり結論という
 ものが出たかどうか。この点はっきりしないと委員会
 の決定として今後参考にするという場合には一市民
 一議員という意見とそうかわりがなくなってくるという

ふうに考えるわけでございますけれども、委員会というところで
もつてまとめられ、ある程度答申という形が取られておれば、
我々が選んだ委員でございすから、そういたもうについては
ある程度民主主義の原理から自分としては、方向が違つて
おつても協力していく面があると思ひますが、こゝに面について
はどうなのか、こゝの根拠を明らかなにでもうたいわけござい
ます。

それから、前段におけるところのものについては、平行線をたどり
ますので、そう申し上げませんけれども、カーナバラフラワ
ーラインがいか悪いといふことはいつてない。

フラワーラインを作るには、市民のたより交通網、受益的、市
民的要望といふものを作らなければ、軒を貸して母屋を
取らねるゝ結果になる。

そういう面で市長サリ、市政にたずさわる者は配慮一な

ければならない。三という点であつて、そういう点を私は指摘しなわけでございます。

さらに公共的な団体や問題については私は全く意見を異にするもので、これ以上三で言いません。従いまして第一点について答申の根拠法的解釈、これについて私は明らかにして置きたい。かように思います。

・助役(小武男君)ただ今う答申の關係でございますが、市内にいろいろ委員会がございますが、正式な答申書という形式で出しておるところと、会議録に会議の結論として、こういうふうにきめますというところとを、会議録に記載されたものをもつて答申と見て、処置するところの場合がございます。

この件は、今、会議録を取りにいつておりますが、大体調査会、結論は、このように市長に報告するところ、委員長の宣告があつたことが、会議録に出ておる。三というところで

それにかわるもうとして市は取り入れる。こういうことでござい
ます。もともと諮問機関でございますので、答申が出たから
そのまま執行部が取るという制約はもちろんないわけでござ
いますので、そういう形式は委員会としても委員会全体が
空気がその方向にいつているという方向が察知されれば、そ
れを基本にして市はいい。こういう考えでございます。

法的にどうかということになりますと、委員会ですから諮問
に対して答申ということとは正しい形式上の姿でございますが、
速記録によつて会議の内容、皆さんが意見する傾向がわか
れば、それをもちつて、こっちが答申にかわるものとして、それを
参考にする。こういうことで御了承いただきたいと思います。

二〇番(辻田実君) その点はもうちょっときちんとしていただきたい。
三月の議会で施政方針演説等をめぐつて相当の意見
も述べたかっただと思つた。一か一ながら議員の中から選ばれ

たところ審議会というのがあるからそこで結論が出る
 までにはあまりとやかくいうことはないだろうということであ
 る。言半句もふれなかった。全議員もそういう立場ではな
 いかと思いますが、その点について発言は見られなかった。
 助役が言われたような御答弁ですと問題がある。答申と
 いうことではつりあふたもので、それが法的根拠を持つよう
 なものであれば何うせうらに對しては質問いたしませんけ
 れども、一か二かながらその点について私は今言われたように
 委員が発言されたものを議事録を見て南適当に自
 分の都合ういひものを取り上げて答申とすりかえていく
 ということであれば、議会の中においても市民運動にと
 も修正なりそういうものを考えらるわけではございませ
 ん。そういう事態が直前に起きるといふことではいけ
 ないで、その点について内容的なもの、そういうものが

どうしようにさしてあるかという二点を明らかにしておかないと
この問題は一層が残って委員会が開居休業である
という二点で懸念されるわけでございます。

最近、開発公社については答申に基いたという二点で買
収計画に乗り出しておると聞いておりますが、開発公社
で買収、そういうもうが進んでも議会で承認ができない
という二点で問題が生じてくるわけでございまして、そ
うな二点について明解なる御答弁をいただきたい。

今う状態では納得できません。お答え願いたいと思
います。

・議長(田中祿郎君) 午前十會議はこれにて休憩心とい
ます。

午前十時四十五分 休憩

午後一時十分 再開

議長(田中祿郎君) 午後の大席議員数 三十名

休憩前に引き続き会議を開きます。

一、番議員に対する答弁を求めます。

助役(小久武男君) 午前中、質問につきまして、辻田議員にお答えいたします。

答申の効果といいますが、効果といいますが、これについては先ほども触れましたように、その会が決定意見が執行部の方に通ずればいいという見解を持っております。

従いまして、それが正式な書面であつても、会議録であつても、私どもの方に通ずればいいんではないか、こういう見解でございます。

先ほど問題の説明でございますが、市長が市民会

い。一の場合と申しますのは、その場所が三カ所ございまして、一というは、今申します市役所、ただ今折衝中、地区をさしてあります。

二、体育館の性格の問題ですが、施設は体育館、会館兼用で研究してもらいたい。以上二点を市長に答申することに御異議ありませんか、ということに対して、全員賛成、こういうことであります。委員会の気分は十分執行部に反映されておる。こういうふうな解釈してあります。

議長（田中祿郎君）以上で一般質問を終ります。

日程第二、報告第一号を上程いたします。

（書記朗読）

報告第一号、昭和四十年、度、館山市、継続費繰越計算、

書、報告について。

衛生施設課長（吉田耕一君）報告一号につきまゝて御説明中

ー上げたいと存じます。

四十年度繰り越し費の関係でございしますが、継続事業費を御決議いただきまゝて四十年度、四十一年度と二カ年が継続を計画しておつたのでございします。従いまゝて四十年度に主体工事でございします。三千万円を実施するということであつたわけでございますが、たまたま用地、その他交渉等にひき取つた等々関係から四十年度におきまゝて予定の執行ができなかつたというふうなことからいまいて本施行令に基きまゝてここに継続費の繰り越し計算書を調製ないないまゝで、ここに御報告申し上げたわけでございます。なお、金額四十一年度に繰り越さないまゝて四十年度より三月から着工いたしまして、四十年度に完成という考え方で進んでおります。

三千万、賤源内訳等につきまゝでは、地方債が二千二百万、一般賤源から百万を繰り越す、ということでは合計三千万を四十一年度に繰次繰越をいたしたい。かまうに考えて御報告申し上げる次第でございます。

・議長（田中祿郎君）報告第一号は承認と決めますことに御異議ありませんか。

議長（田中祿郎君）異議ナシと認めます。よって承認
と決まりました。

日程第三議案第三十五号から議案第四十六号まで
の各議案はニク際一括上程し、本日はニクが内容説明
といたしたいと思ひます。ニクに御異議ありませんか
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。まづ決定いたしまし
た。議案第三十五号乃至第四十六号を一括議題といた
します。二、三際おかけいたします。

ただ今一括議題となりまゝに各議案は朗読を省略いたす
ことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よつて各議案の
朗読はこれを省略することに決まりました。

三十五号議案より順次説明を求めます。

消防本部次長（石渡東君）概要を御説明いたします。

数年前から消防団員が死七もしくは負傷したような場
合、家族に大黒柱を失ったような場合、年金化すべき
だという問題が全国的に持ち上りまゝで、それによつて
本年四月四日付をもちまゝ、非常勤消防団員等

による災害補償基準を定める政令が改正を見たい
てでございます。これに従いまして、各市町村は速
急に条例を整備するようという通達も参りまいら
で、今回この条例を提案した次第でございます。
条例の内容につきましても、第一条に目的が示されて
おります。

次に補償の種類といたしまして、療養補償、休養補償、
障害補償、分けまして、障害補償、年金、障害一時金、
遺族補償、年金と一時金、三ついう種類が、補償とい
うことに相なつたわけでございます。

第三条にいきまして、損害補償を受ける権利は、三つとい
うに権利があるやうなということと、市長が損害を受け
た人に通知するやうなという規定でございます。

それから、あとは、損害補償の基準につきましても、あ
くまで

も政令に示されたものに従って補償していただくというところでございます。それから異議の申し立て報告等も条文がございしますが、これは今まである条文とそう大いにかわっておりません。損害補償の返還あるまうて多く払い過ぎたような場合に返還を命ずる大體以上が内容でございしますが、一かりは今回改正された政令の内容はどうなっておりますかと申しますと、お手元に配付してございますが、館山市消防団員等公務災害補償条例参考というプリントがございしますが、これはよりまうてその政令の概略を御説明いたします。

まず、補償基礎額でございしますが、今まで最低七百円から千二百円という各段階に表ができておったのでございます。今回、これが経済情勢等を考慮し、まうておうなり二百二十円を増し、まうて最低九百二十円から千四百三十円まで

に引き上げらるゝた。これが第一点。大きな改正でございます。

次は障害補償と遺族補償の年金化でございますが、
 障害補償、けがをした場合でございます。障害の程度
 が第一級から第十四級まで、第一級から七級までについて
 は、年金を支給する。八級から十四級のものについては、
 一時金を支給するのだということでございます。

遺族補償、これは主人がなくなつたような場合でございますが、
 年金と一時金に分けておりまして、原則として死
 亡の場合には、年金として支給するのだ。

支給する範囲につきましては、配偶者、子供、父母、孫、及
 び祖父母、兄弟姉妹といったもので、配偶者を除いた
 ほかの者については、年金額制限がございます。十八歳
 未満の子供、兄弟姉妹と六十歳以上の父母、祖父母、そ

他の者ではもらえないということでございます。

条件に該当しない者でも、廢疾う状態になった者には遺族年金をもらう権利があるということでございます。
計算の方法があります。これは読んでいただきます。
遺族補償一時金、どういう場合に一時金を支給するの
かといえます。消防団員がなくなつたけれども、遺族年金
をもらう人がないという場合、配偶者がおつたんですが、と
りあえず、一時金をいただきます。こういう申し分がある場合、
一時金を支給する。ただし、配偶者に一時金を支給す
る場合には、その補償基礎額に対して四百倍をいたし
まして、四百倍のものを支給して年金で計算していろ
う、四百倍の額に達した場合にその後は年金にかわつて
いくということでございます。

配偶者以外の方については補償基礎額より四百倍を一時

金として支給することができる。こういうことでございます。それから次に列表といつて、第一級から十四級まで障害の程度に応じて、第何級に決定するかという内容がうつております。

一番最後にけがをした場合、死亡した場合、一体どの程度もらえるのかというのが、参考の例として登載してございまして、簡単に申し上げます。

大が分団長で八年間勤務し、妻、父、六十歳、母、五十歳、長男、十五歳、長女、十歳、こういう家族があつたといつて、最初は障害補償一時金、夫が二十五日間休業し、一万五千円、医療費を要し、第十級、障害と決定された場合、療養費については、かかっただけ、正当なものとして認められた。

休業費は分団長で八年間勤務いたしますと基礎に

よりまして千七十九月でございますが、家族が加算がございまして、妻・二十月・子供のうち十八名未満の者について一人二十月、又十三月・長女十三月・合わせまして千百三十九月というのが基礎額ということになります。そのもうが政令によりまして、基礎額が百分の六十を休業補償として支給するということになっておりますので、百分の六十をかけまして二十五日間休業から一萬七千四十月が休業補償ということになります。

それから障害補償にいまして日額・千百三十六月かける二百七十というのは第十級ということを見ているんですが、二百七十倍という数字がありますので、これをかけますと、三十九万六千七百二十月が、障害補償ということになります。三つを合わせますと三十三万八千七百六十月が二人に一時金としていく金ということに相なるわけでござ

ございます。

障害補償年金。これは第七級以上の大けがをした場合
であります。

夫が公務損害を受け、六十五日間休業し、医療費
三万五千円、第四級と決定した場合、医療費は三万五
千円、千百三十六円、かける百分の六十、かける六十五日、これ
が休業補償でございます。

障害補償は基礎額千百三十六円、第四級は百六十四
倍となっております。これをかけますと十八万六千三
百四十四円。この金に傷のなるとまで、第四級ですから相
当重い廃失になっておりますが、有むまで、これが支給
されることになるわけでございます。

次に遺族補償年金。死亡の場合の例でございます。
夫が災害現場において人命救助中、公務死亡と決定

コトナ。基礎額が同トく千百三十大月かける三百六十五、ニハは政令に規定してございまして、百分の三十五を年金として支給いたします。このことになっておりますので、ニハで計算いたしますと、このやうな額になります。なお、政令規定によりまして加算額がございます。ニハは基礎年額といつて、補償基礎額千百三十大月にかける三百六十五、ニハを基礎年額と呼んでおります。一人について、百分の五、加算を認めるということになっておりますので、基礎年額の百分の五をかけまして、かける四というのは、権利を有する者が四人おりますので、四倍でございます。ニハが八万二千九百二十八円でございます。

合計年金が十八万六千五百八十八円、ニハを遺族がもらえるということになります。

ただ、遺族は一定の条件によりまして、途中で停止される

場合、その他、いろいろ規定がございますが配偶者の場合には、そういう規定はございません。

それから葬祭費でございますが、葬祭費は基礎額の大十倍という規定になっておりますので、大十倍いたしますと、六万八千六百六十円が葬祭費として支給されることに相なるわけでございます。大体計算の例はただ今申し上げた通りでございます。以上です。

保健衛生課長（池田亮山君）議案第三十六号について御説明申し上げます。地方税法施行令の改正に伴いまして、保険税の低所得者層の減税範囲の拡大でございます。

第十三条の二号に世帯主を除きます。被保険者の数に二万五千円を乗じた額と十万をプラスした所得以下のものであるについては、それぞれ均等割と平等割を減額する規定になっております。一人当りの二万五千円が三万円に拡大され

なわけでございます。

なお、この条例の適用は昭和四十二年度分から適用すること
になっております。

次に議案第三十七号の御説明を申し上げます。

保険条例の一部改正でございます。従来、当市の条例に給付
期間がうたわけておったわけでございます。今回本法で
給付期間は削除されておるわけでございます。

条文の整理上、第五条を見出しともども削除いたしまして
法律も本法同様給付の期間というものを削除しようという
わけでございます。以上でございます。

秘書課長（小倉澄男君）議案第三十八号と三十九号につきまして一
括最初に御説明さしていただきます。

二議案は、館山市の特別取組の報酬に関しまして、館山市特別
取組報酬等審議会というものがございまして、この審議会に

はかりまして、助役、収入役の給料、並びに議会議員の報酬につきまゝて検討いたしまして。

ここに表示されてゐる助役十萬三千円を十萬八千円に、収入役七萬八千円を六萬二千円に、市議會議員の報酬につきまゝては議長四萬二千円を五萬円に、副議長三萬六千円を四萬三千円に、議員の報酬を三萬円を三萬六千円に改正いたしたいと思ひまして、審議会に諮問いたしたのでございます。

その結果、まず、諮問の理由といたしまして、市議會議員の報酬に關しましては、三十八年の十月ベース改定がなされて、現在の報酬額になつたのでございまして、その後二年九カ月一度も改定なされてなかつたということ、非常に経済的変動も著しい現在の情勢下におきまして二年九カ月の間、改定が行なわれなかつたということ、各市の情勢からいろいろ見當いたしまして、結果、平均いたして

まして約一九・六％になるんですが、この程度で改定が必要ではないかということで諮問いたしまして。

なお、助役収入役につきましては、昨年の四月一日に国家公務員の行政取の給料表に準じましてアップ率をもつて改定いたしておるんですが、今年も四月一日には、その改定もなされなかつたということで常勤の特別取であるということから、当然ベース改定すべきであるということに基づきまして、国家公務員の行政取の平均改定率約四・一％程度の率を計算いたしまして、審議会に諮問いたしまして。

その結果、審議会といたしましては、全く、これは同感であるというような答申もあつたために、本日、ここに二議案を提案いたした次第でございます。

それから四十号でございますが、これは諮問事項ではない。

でございますが、ただ今まで「関係」といえまして、収入役
教育長というふうなことで改定いたしてまいりました。た
 だ今、助役収入役が改定された同様な率でもって、ここに
 提案した次第でございます。

議案第四十一号でございますが、本年の六月十五日に支給い
 たしますところの期末手当でございますが、期末手当に
 つきまして、やはり本年も職員組合並びに県下の十九市
 の連協等からも要望がございまして、いろいろ検討いたし
 ました結果、館山市といえましては、基本条例が一・二期
 末手当の〇・三が勤勉手当でございますが、合計一・四という
 基本条例に對しまして、〇・一五というものを特に加算して
 支給したいということによりまして、特例として提案した次第
 でございます。

第一条、目的。第二条におきまして一般職員の期末手当

の内訳でございます。

第三系におきまして議会、議員の期末手当、さらに第四系におきまして市長、助役、収入役、期末手当をここに同率におきまして支給したいというふうな趣旨におきまして提案した次第でございます。よろしく御審議のほどをお願いいたします。

土木課長(新井重助君) 次の四十二号議案につきまして御説明申し上げます。図面がございしますので、ごらんいただきたいと思います。

西岬の所、崎灯台の手前にえいす浦という漁港がございまして、それに至ります。道路を改良いたしまして、古い道路を百十メートル、長さでございますが、これにかわりまして、今回認定しようという斜線が入っている道路でございます。

改良いたしますもので、百三十二メートル、幅三・六メートル

に改良したうででございます。

それによりまして旧道の方は相模鉄道が用地と取りまいた
うで、この道路を使用する必要がなくなるので一応廃
止いたしまして新たに百三十二メートル幅員三・六メートル
の道路をここに認定しようというものでございます。

市長(本間 康 君) 議案第四十三号 監査委員の選任について
申し上げますが、学識経験者からなる監査委員が六月二十
四日をもって任満了いたしますので、現在まで監査委
員でありまして実績を上げております三平 宏 君を
御推薦申し上げたいと思つたわけでございます。

議長(田中 祿 郎 君) 暫時休憩いたします。

午後 一時四十五分 休憩

午後 二時二十分 再開

議長（田中祿郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

財政課長（長谷川広治君）議案第四十四号の一般会計補正予算について御説明申し上げます。

今回補正で歳入歳出予算額にそれぞれ千八百二十五万円を追加いたします。予算総額を八億三千二十九万四千円といたします。

補正いたします各款項の区分につきましては後刻明細書により御説明を申し上げますが、総体的な数字といたしましては収入面におきまして減額いたします。金額が九十六万五千円、追加を計上いたします金額が千八百九十九万七千五百円、差し引き千八百二十五万円に相なります。

歳出面におきましては更正減額をいたしますのが四百三十九

万九千円、こゝが二千二百三十八万四千円でございまして、差し引き千八百二十万五千円、純追加額というところに相なります。千八百二十万五千円につきまして、特定財源がございますので、その合計額が千二百三十万三千円というところに相なりますので、不足額が五百八十二万二千円を一般財源として歳入面に計上いたしております。一般と特定財源の率は四七・七%であるというふうに考えております。なお、今回四十二年度に限った制度として、臨時特別交付金制度というものが設けられ、またために第二十二款といたしまして、臨時特例交付金という款を設けて計上しておりますので、課目訂正と第十二款の民生資金貸付収入の中に第四十二項といたしまして、開発公社貸付金収入をその中に加えて、補正をいたしたい。かように考えて計上いたしております。

秘書課長(小倉澄男君)歳出の方を御説明いたします。

一般管理費より十九節負担金補助及び交付金九十二万円計上いたしまして、千葉県鉄道網促進期成会利用債が千葉県下十三億円の配当、これを正金融機関が引き受けまして、その利子を県並びに關係市町村におきまして負担するというところで、ここに上げられてございますが、総額におきまして六千二百二十九万六千円となりまして、このうち県が二分の一残りまして三千百万というものを、柏線市町村が均等割、財政規模割、乗降、客数割、三〇%、四〇%、三〇%で負担いたしまして、館山市が九十二万円となりますので、ここに計上いた次第でございます。

それから千葉県市町村公平委員会や連合会が新たにできまして、これを新たに四千万計上いた次第でございます。

企画課長(谷貝茂生君)ニ款総務費の企画費につきまゝて御説明申し上げます。

十九節の負担金補助及び交付金のところで安房有線放送連絡協議会負担金二万一千円、これは郡市有線放送の連絡協議会がございまして、たまたま本年十周年に当たりますので記念行事といたしましていろいろ事業を計画してゐるでございすが、これらに対して多少の助成を願いたいというところで安房郡の町村会の方に要請がありまして町村会で均等割とか加入者の割合とかこういうたものから検討して負担するということになりまして、館山市にもぜひ負担して欲しいという要請がございまして、今回その率に定めて二万一千円だけ負担したいということでございます。

次に二十一節の貸し付け金、館山市開発公社事業貸し付け

金九百万円でございしますが、皆さん御賛成をいただき
まして三月三十日付で館山市開発公社が発足いたしま
して公共用地の買収等を実施していくことになりましたが、
公社の結成につきましては申し上げるまでもないでござい
ますが、さああたり買収をよろうとしてゐるが、市民第
用地買収の仕事でございします。

先ほども質問がございしたように土地買収につきましては
市役所の東側、用地買収といなまいて、四千二百坪ば
かりを、一応五月末をもって御了解いただきまいたうで、三
から仮契約とか手続きを進めて参るつもりでございしますが
それらに対する買収費といなまいて、公社本来の姿から
すれば金融機関の借り入れによつてゐるでございしますが
今うとしろ、そう大金もすぐ必要というこゝでもございませ
んの、九月頃になつてから埋め立て工事というこゝにか

ります。ある程度、資金が必要になってきますので、そのときに処置するとして、当面はこれで足りそうです。市、予算、歳計現金の中から操作して貸し付けをしていただく。本年のうちに返すということ。九月頃まで、やはり金融機関から借りるよりも、大局的に市の用地だから安く買えるということ。原則的には、利子を見ることもたてまえかもしれませんが、結果的に同じになりますので、無利子でもって貸し付け金としたいのだと思います。うことで提案した次第でございます。

・商工観光課長（小沢正治君）総務費、十日諸費、中で十五節工事請負費四十万円でございます。

これは説明にございますように、駅前十字路に自動信号器を設置いたします。工事請負費でございます。ライオンズクラブから三十万円、寄付金を予定しております。

ます。

十九節の十萬五千円、これは千葉県知事とはども、京葉六市
の各市長が發起人となりまして千葉県下りの交通事故に
関しまする相談所を開設いたしまして、千葉県交通安
全協会連合会が揮用に当るといふことで揮費七百
二十万円のうち県下りの十九市で五百万円を負擔し合ふ
といふことでございまして、五百万のうち、三百七十五万円を
京葉六市で負擔いたしまして、残額百二十五万円を十
三市において人口割と均等割で計算いたしまして負
担するといふことでその負擔が十萬五千円でございます。
・市役所長(羽山房雄君)諸貴のうち、二三節の償還金、利子及
び割列料、四萬五万円計上いたしまして、

これは主として法人市民税の更正決定による減額分、償還
金でございます。

当初予算で二十万円計上してありますが、不足を生じましたので四十五万円、追加をお願いいた次第でございます。ただ今ところ法人五社の方が大多数になっております。二項徴税費、二十三節償還金一万五千元、これは還付加算金を計上したわけでございます。

選挙書記長（大嶋重義君）一目で選挙管理費委員会費におきまして三十三万一千円、補正をお願いいたした。これは今回も永久選挙人名簿のため事務費でございますが、この内容を申し上げます前に一応概要をお話し申し上げたいと思います。なお詳しことはお手元に差し上げました参考印刷物により御承知願いたいと思っております。御承知のように今回も永久選挙人名簿は九月三十日から実施されるわけでございます。この名簿を作るために今回も選挙資格を全国一斉調査によって行なうと

それから二つ目に大事なことは二重登録とか脱漏とか
 間違つて名簿にいうところというところはもつとも防止しな
 ければならないことでございます。二点につきまゝて
 法は一応縦覧期間を定めまして規定の場所で縦
 覧させればよろしいということになっておりますが、こゝで
 は目的が違へませんので、選挙区といつても、こゝ際
 もつとも有効な方法を講じたい。そのため思い切つて
 こゝ名簿ができ上りまゝならば、市内の全世帯に登
 載された氏名を確認していただきたいという方法を取
 りたいと思つております。

三つ目に今回改正等につきまゝては、PRということが
 非常に重要視されるわけでございます。二点につきまゝ
 て私どもとしましては、市や広報、或いは回覧板、或いは
 有線放送、市内の新聞、さらにには町内会、部落会、また

推進協議会に推進費というものが各部落にあります
で、ニール人たちとありゆる機会を通して周知徹底
をはかりたいと考えております。

なお、永入名簿でございすが一人一枚のカード式にわけ
てございますけれども、現在ところは政令をまつてカード化
することになっております。

そこで三節の取買手当十六万一千円、これは取買の調
査手当、それから整理に相当の手数もかかりますので、整
理事務四万二千円、十一節の需用費でございすが、これは
調査表等の印刷製本費等におもなものでございすが、
十二節の役務費でございすが、通信運搬費として十二
万七千円、これは先ほど申し上げましたところの名簿の脱漏
とか、二重登録防止のために全世帯の通知をしますとこ
ろの郵便料でございすが、なおこの調査につきましては

県より補助金として二十六万五千円の特例の交付がす
てに指令を受けておりますので、申し上げます。

・庶務課長（山口実君）五項統計調査費について説明申
し上げます。二万九千円を増加でございますが、これは商
業統計調査の調査区を増に伴います。調査費三名
分の追加並びに事業統計調査費、調査区を増に伴
う二名の調査員の増がちなものでございます。

・福祉事務所長（鴉沢貧寛君）第三款民生費につきまして
御説明申し上げます。

一目見直福祉総務費、十二節役務費十五^節工事請負費
を計上いたしまして、これは青年館の建設費でござい
ます。過去三十九年度、四十年度にそれぞれ二館づつ
建設いたしまして、本年も県より補助金一館について
五十万の内定がありまして、本年も二館を建設いた

へというにとてに計上したわけでございます。

場所は所々宮部落一館、長須賀第二町内会一館、こ
う二館を予定したものでございます。建築の規模は
所々宮が八十九・三五平方メートル、長須賀八十九・三平方
メートルでございます。

十二節の役務費、建築確認手数料、各館千円づつ、
工事請負費として、三百二十万、所々宮が百七十万、長須賀
が五十九万を予定したわけでございます。

衛生施設課長（吉田耕一君）九ページ二項の清掃費につきま
して御説明申し上げます。

今回百四十万五千円を希望するというものでございます。
そのうち二百万トんかい処理費でございますが、百二十五
万円、十一節の需用費におきまして、自動車や改造費
三十万円、現在七台の収集車をもちましてゴミの収集

をしておるわけでございます。うち三台が平ボデーの
小型トラックで収集しておるわけでございますが、これで
おろしますときに相当時間がかかる。一台大体三十分乃至四
十分かかる。一方ダンプは二三分でおろしてしまふというこ
とがおもな原因でございます。今度焼却炉が完成いたします
と投入口にすぐに落とすというふうな装置になるわけでござ
います。なおさら平ボデー式よりもでは危険も伴う。
時間もかかるということから現在平ボデーでございます。
三台を一応軽易なダンプ式に改造いたらないということござ
います。

十四節の使用料及び賃借料でございますが、これは現
在昭和橋の上流の旧河川敷に埋め立てとしてゴミを捨
てておるわけでございますが、すぐに山のようになつて
しまふ。なかなか整地が困難でございますので、ブルを借

リ上げて整地してその上に捨てておるわけでございます。
なお、今後焼却場の完成まで期間、どうしても過去の実績から見ましても、この程度、ブルウ借り上げ料、不足を生ずるという関係からお願いしようというものでございます。

十五節工事請負費でございますが、同ト河リ敷のゴミ捨て場でございます。

付近の隣接の耕地の所有者等から強い要請もございまして、あそこは捨てましたゴミが風等によって散乱して付近の耕地に飛んで困るということでございますので、一応簡単なさくを作ったのでございますが、なかなか食い止めることもできませんので、今回完全に食い止めらるだろうという工事を施行いたしまして、隣接者の要望にこたえていきたいというふうに考えて上程した次第でございます。

次に三目うー尿処理費でございますが、十五万五千円を
お願ひしようというものでございます。

十一節の需用費におきまして十三万円、これは現在使
つております高速サンプロ床の中にございます。みかげ石
のにぎりこぶー位のものでろ過するわけでございま
すが、そうみかげ石に汚泥といひますか、そういうものが
付着いたまいて、完全にろ過機能も発揮さしてない
という現象になりつつあるわけでございまして、現在入っ
ておりますものを四分の一程度を一応取り出しまして付着い
たままのものを洗浄いたしまして完全にろ過ができる
ようにいたないと考えまして、それに必要な経費をここに
計上いた次第でございます。

十八節備品購入費でございますが、処理場におきま
して、運営管理とする上におきまして、必要でございま

浸透計、透視計或いはガス探知器というふうな備品を
そなえて彈震管理に支障のないように考えて二万五千
円計上した次第でございます。以上でございます。

土木課長（新井重助君）第五款労働費について御説明
申上げます。

長年継続してやっております失業対策事業でございます
すが、適格者が漸次減少して参りまして同時に常用
化ということになっておりますことと最近になりまして土
人の適格者と相なつたのでございます。

四十一年度におきまして十一人を基礎人として予算を編
成してありますすが、本年に入りまして定取化が進
みまして十一人の全員定取につくということになりまし
たために市が従来使っております四人を市に採用いた
しまして残り七人を民間の方に退取いたします。

關係で失業者が資格者が全部定取いたしまして、
 うで、失業対策事業ができなくなりまして、全面的
 廃止というにたり失業対策総務費で百八十七万
 二千円が減額、事業費で二百五十八万八千円が補正減
 額にたります。

それに伴ひまして土木総務費で百七十四万円が追加、道
 路橋梁費におきまして、百八十一万四千円が追加でござ
 います。こゝ中に人件費を含んでおりますので、人
 件費はただ今までの支出にまゝ、残額を全部
 持つてきたわけでございます。

道路維持費中に六十六万六千円、失業者六人、賃
 金でございます。

需用費九万は燃料費、修繕料、これも失業対策の
 方から持つてきたわけでございます。

使用料ニヤも同じくでございます。

十六節原材料費におきましては失業対策事業となり
おりまして五月十五日までを使いまして残額を持って参り
まして失業対策事業で計画いたしました路面の補修
砂利敷ニヤをやりいきたいと考えまして残額全部持
きたわけでございます。

次に都市計画で百八十方追加でございますが、これはか
ねて城山を整備ということではいろいろ果当局にも願
いであつたのでございますが、今回四月早々になつて城山
千疊敷に見童公園、これはあそこにつばき、つつト等を
植えましてまた見て歸つてもう、遊ぶ設備がないと
いうことで公園の一部に見童公園ということでは補助金
もつくことになりまして、築面積六・三ヘクタールの中に
休憩所一棟、大型四人乗りブランコ一つ、スカイシーソー

安全ブランコ一つ、石う山うスベリ台一つ、これはほかにも
ございますがほかうと違ひますうを一つ、便所一カ所、水
飲み場一カ所、ミウいう設備に百八十万円、内訳といひ
まゝて給料から需用費に至る間は事務費として、工事
費う五%以内をミミに計上してございます。

十五節う工事請負費、百七十一万二千円はたゞ今申し上げま
した施設う工事請負費でございます。

・商工観光課長（小沢正治君）五款労働費う二項労働諸
費でございます。

十九節八十万円う追加でございますが、日雇い労働者就
取支度負担金八名分、失対労働者が継続性うある
常用化する場合に果て支度金といひまゝて一人
三万円を貸し付けける制度があるわけでございますが、
これが一年以上常用化されな場合に返還しなくても

いという支度金でございます。これを県が支出した場合にその三分の一を市が負担するという制度でございまして、今回十一名の者がこれに該当するに
なりまして一人一万円でございまして、当初予算に
三名分を計上しておりますので、不足額八名分を追
加するわけでございます。

次に第七款、南工費、観光費、工事情、負債費、二十三
万五千円は夏季の臨時の仮設便所でございます。一
組を立て、式のプレハブの便所でございます。二個付で
一棟というものを三カ所増設することになりまして、
で、合計二十三万五千円を追加でも願いますという
ものでございます。

・消防本部長（石渡東君）九款、消防費について御説明の
いたします。

第二目、非常備消防費五節、災害補償費。これは先般神戸市布沼地区で火災がございまして、大石の小林さんという方が負傷をいたしました。こゝう災害補償を支払うというものでございす。

休業補償、医療補償を支払うというものでございす。教委庶務課長(干場伊右衛門君)教育費について御説明申し上げます。教育費において九十万四千円が追加でございす。が、小学校におきまして三十五万円が追加でございす。

内訳は十一節需用費で十万円、これは富崎小学校の校舎の修繕でございす。が、当初予算に五万余計上いたしてございす。が、窓ワフ、窓障子等の腐朽がひどいので、こゝ十萬を追加して、西風が強い場合の手防、そういう面にもなつて思ひます。

十五節工事請負費でございます。二十五万円をもちまう
神余小学校の便所、改修工事でございますが、便槽の改
修等内部はり板、それから屋根のふきかえ、そういうも
うで二十五万円も願ひております。

次に社会教育費で十六万三千円を追加でございますが、十五
節の工事請負費で九重公民館の雨漏り、床の修理
でございます。

次に保健体育費で三十九万一千円、これは千葉県民体育
大会、出場選手の服装及び帽子代金といつて、
二百三十七名か、一人千六百五十円、これを市体育協会
補助金として支出して、この服装を整備する。

三ついうものでございます。その他に果の方から一人三百
五十円、八万三千円が、やはり市体育協会に補助される
ことになっております。以上でございます。

財政課長（長谷川広昭君）以上で歳出の説明を終りまして

総額千八百二十五万五千円という二とに相なります。

続きまして歳入御説明申し上げます。

大款の国庫支出金、七款県支出金、八款寄付金、十二款
諸収入につきましては、それぞれ歳出で御説明申し上げま
した計上額に対応する追加額、或いは減少額をそれぞれ
補正をしたものでございます。説明欄により御了
承願いたします。

二款の二として臨時特例交付金として五百八十二万二
千円を計上いたしてございます。

これは四十一年度のみう臨時的な制度でございまして
市税の減収を補うと申しますか。そういうことから
たばこや本数に按分いたしまして特別に交付金をと
くというふうな制度がございましてために款項目、

それやい新しく補正をいたしまして計上いたしたわけではございますが、大体交付金として現在千九十二万八千円、程度を交付されるというふうに考えておりますが、現在のところ、財源関係から、一応五百八十二万二千円だけを予算計上いたしまして、残りは次の財源として保管しておくと、いうふうなことで、一応今回はこれだけを計上いたしております。以上で歳入の説明を終わります。

歳入も千八百二十五万円でございます。よろしく御審議いただきたいと思います。

・商工観光課長（小沢正治君）議案第四十五号について御説明申し上げます。

館山ユースホステル特別会計、補正予算でございます。今回歳入歳出とも三十一万円を追加いたしまして、合計それぞ、四百七万六千円とする次第でございます。

ニハ、エース・ホステル、入口にあります。青木繁、記念碑の台地からホステル施設、浄化槽の上にかけまいて、斜面が雨にあらわれまいて、危険な状態になるので、ニハ、土止め工事とそれから二階、もういっぺん補修、それから室内のカーテンの取りかえ工事、合せて三十一万円、早急に実施せざるを得ない状態になりまいた。関係と本年度中に着工いたしたいという考え方で追加する次第でございます。

財源といたしましては、前年度、繰り越し金三十一万円を充当いたしたいという次第でございます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）議案第四十六号につきまして、御説明申し上げます。

特別会計上水道事業会計でございますが、歳入歳出予算、総額にそれぞれ四十七万円を今回お願いいたします。

いうものでござります。従いまゝて歳入歳出をいざい五百
七万五千円といたうたい。

歳入歳出予算の補正に伴います款項につきまゝては、
二一パーセントから申上げます。事業費の総務管理費に
おきまゝて十二万円、水道管理費におきまゝて二十五万
円をお願いするわけでござりますが、これは現在建設されて
おります大賀地先にござります。かいた村を中心といた
まゝな面にあらう下り平地にもないぶ家も出てきておる
ので、そこに通じます。幹線とそこに敷設いたるまゝて
かいた村及びその下り平地にござります。一般世帯への
幹線への配水管への敷設を実施いたうたい。このように
考えて以上を補正をお願いいたうたい。このようによ
す。

二つう財源でござりますが、一項の負担金におきまゝて

水道の新規加入者というのを十戸程度年度内に
見込みを立てて一世帯一万円を見込み、十万
円を負担金を見たわけでございます。残り不足額
を繰り越し金に求めたわけでございます。前年度
繰り越し金総額で八十八万二千四百七十七円という額になる
わけでございますが、そううち二の金額を一応財源と
して見込んでおります。以上でございます。

議長(田中祿郎君) 以上により各議案の説明を終ります。
一、議事についておはかりいたします。

議案第三十六号より、議案第四十三号まで、議案に
ついて内容が審議に入りたいと思ひます。

二、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。さうして二の

より内容審議を行ないます。

議案第三十六号を議題といたします。

御質疑願います。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第三十六号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ありません。よって議案第三十六号は原案通り決定されました。

議案第三十七号を議題といたします。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第三十七号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって議案第三十七号は原案通り決定いたします。議事についておはかりいたします。

議案第三十八号から議案第四十号の三議案は、いずれも関連議案と思われますので、この三議案を一括して議題といたしたいと思います。こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって議案第三十八号から議案第四十号を一括議題といたします。一番(辻田実君)ちよと御質問申上げたいと思ひます。まず、第一点は、この給与引き上げに対して審議会が関心なわけですが、ございます。先ほど御説明の中にもありますと各種の面から考えて、二、三程度のアップ

が当然ではないか、それに対して審議会としても全く同感であるという答申があつたのでここに上程に至つたという説明があつたわけでございます。するけれども、この各種の面から、考えてという、二点についてももうちまつと具体的に説明していただきたいというところが第一点。

第二点にましまして、給与の値上げ、それからもう一つについては私は、議会活動を進めていくという面から考えて、一応反対する者ではございませんけれども、一か一ながら、市の財政、教育、福祉、さらに道路、土木、こういうものについて、非常に影響がでてくると、そういう面に支障が起きてきたり、多量なりとも、ひっかかります。すると、私たちが市民の福祉、市民の利益を守っていくということをもつていて、いふ議員という立場から、いわゆる矛盾する点が出てきます。それで、二つ、三つ点について考慮の上かと思ひます。

けれども歳費の値上げによって予算の圧迫。そういうものはないのだということがいえるのかどうか。いようでございますけれども、この問題は非常に議員と市民という間のデリケートな関係があるわけですので、まず、確たる答弁が得らるものかどうか。この二点について御質問申し上げます。

秘書課長（小倉隆男君）私から第一点についても答えたいです。各程というところでございますが、私、各種と申し上げた意味はまず第一点といたしまして、三十八年、九月からベース改定は行なっていないか、ということによりまして、二年九カ月の格差があるということでございます。大体、二年九カ月の間に、きまー、一般ベースの上昇率が約二〇％というところで、約二〇％弱、引き上げは適当ではないか、ということでございます。

それからもう一つは現在まで議員の報酬のベース改定率が大体二〇%を取つてゐる。こういう点とそれから各市の状況を勘案したときにおきましてもそれだけの情勢に依りまゐつてベース改定をいたしてゐることも参考にしてあります。以上各点を各程と申し上げた次第でございます。

・助役（小出武男君）人件費がアップによつて一般の財政面が圧迫さるうではないかという見方でございますが、これは私ども市の予算を扱う關係におきまゐつて各種の事業が全部完全でないわけでございまして、その予算の範囲内においてより得る限度のことを徐々にやつていくのだという考え方でございます。

従いまゐつてある事業からいへば、ほかの事業が多うことは、圧迫という見方になるかもしれませんが、仮りに人件費に取つて見れば、人件費が上ればそれだけ圧迫だといえ

ばいえると思ひます。ニハは見方問題でございませう。事業費も人件費も市の仕事をやつて之上に必要経費であるという考え方でございませう。

従ひまして各般の事業も人件費もむだか不自然な方向にはゑらない。おすべきものはおす。ニハという考え方でやつてゐるわけではございませう。人件費が上つたから事業費が圧迫だ。ニハはそういうふうに見れば見ゆるのですけれども、基本的考えとして必要経費として人件費も人件費も等しく村等の考えでやつていゝのではないか。ニハという見方を持つてゐる。

従ひましてニハによつて事業費が圧迫したという見解は取つてゐらないことを申上げます。

三五番(松本藤太郎君)三十八号議案ですが、先ほど説明の中には市長さんが、ニハのつてゐないんですが、ニハに

対する説明がなかったが、これはどうしてのせなかったか、これを明らかにしていただきたい。

助役(小島武男君) 市長の分だけ、毎回アプを見合わせておるようになつてゐておしまつて、やはり、全体がバラバラスから言ひますれば、当然、あるのが形式的に正しい姿に見えるわけですが、市長の意見は極端に言へば、わかりやすく言えば、今までも辞退してゐるから、御辞退するということでは、市長は一般取とは違ひますが、非勤取としては、市長の報酬は一つ生活給だ、こういうことにならうと思ひますが、現状で満足できるから、必要がないということではございます。審議会もそういう意向も出たそうですが、御辞退ということでは、表面に出なかつたというふうに御了承願ひます。

三五番(松本藤太郎君) ただ今、助役さんの答弁というが、釈

一番(吉田勇治郎君)議事進行上、暫時休憩を願います。
議長(田中祿郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時三十分 休憩

午後 四時三十分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
三五番議員より質問に対し答弁を求めます。

市長(本間謙君)松本議員さんから御質問に対しまして
お答えいたらないと思えます。

私は今回、市長より給与を上げないことにな願ひいたわけ
でございますけれども、いろいろ議員各位より御意見が
やはり、市長も上げべきだ、こういう御意見見がたくな
のように伺っております。わけでございますから、私も適

当な時期において上げたいと思ひますから御了承願ひたいと思ひます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)議案第三十八号議案第三十九号議案第四十号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。まづて議案第三十八号議案第三十九号議案第四十号は原案通り決定いたしました。

議案第四十一号と上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)議案第四十一号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ナ—と認めます。よって議案第四十一号は原案通り決定いたします。

議案第四十三号を上程いたします。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第四十二号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ナ—と認めます。よって議案第四十二号は原案通り決定いたします。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 議案第四十三号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって議案
第四十三号は原案通り決定いたします。

本日、会議はこゝにて延会いたします。次会は明後大
月二十三日午前十時開会と。その議事は本日に引
き続き残り内容審議といたします。

午後四時四十分 延会

本日、会議に付した事件

一 開 会

一 議長報告(出席説明者)

一 会議録署名員の決定

一 会期の決定

一 市長議案提案理由説明

一 行政一般通告質問

一 報告第一号

一 議案第三十五号 乃至第四十六号

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小柴 孝 館石 伝藏

田中 祿郎 秋山 大三郎

田村 源治郎 望月 照正

安西 益男 辻田 実

石井 正 菊井 敏博

志村 信作 小沢 惠太郎

関 武夫 黒川 佐太郎

西村 真次
藤田 好治

保科 忠夫
江田 徳太郎

君塚 喜三
中村 省吾

島野 茂樹郎
萩生田 七郎

嶋田 繁
山田 教宇

鈴木 市蔵
安藤 亀吉

安沢 徳順
三沢 節

高橋 文治
山本 昇

松本 藤太郎
山口 康

